

地域結集型共同研究事業 追跡調査アンケート

<都道府県用>

○調査の目的

本追跡調査アンケートは、地域結集型共同研究事業（以降、地域結集型事業という）の平成10年度発足地域である、北海道、山形県、宮城県、神奈川県を対象として、研究成果の発展・活用状況、新技術・新産業等の創出状況および地域COE構築の状況等に関して、事業終了後約3年を経過したフェーズⅢの現状を明らかにすることを目的として実施するものです。

○本アンケートシートについて

- ・各シート毎に設問が設けられています。問1から順にご回答ください。
- ・黄色のハッチ部分をご記入欄です
- ・本<都道府県用>アンケートは、貴都道府県で1件のみの配布となっております。
(貴都道府県を代表する立場でご回答下さい)
- ・ご回答頂きました内容は、本調査以外で利用することはありません。
- ・ご回答頂きましたファイルは、メールに添付の上、以下までご返信下さい

返信先

jst-followup@mri.co.jp

株式会社三菱総合研究所 科学技術研究本部 技術マネジメントグループ 瀬川

○問い合わせ先

<調査企画>

- ・独立行政法人科学技術振興機構
産学連携事業本部 地域事業推進部 地域支援課
金子、岡本 TEL: 03-5214-8448 E-mail: s2okamot@jst.go.jp

<調査実施>

- ・株式会社三菱総合研究所
科学技術研究本部 技術マネジメントグループ
三浦、瀬川 TEL: 03-3277-0502 E-mail: jst-followup@mri.co.jp

大変お忙しいところお手数をおかけ致しますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

設問1 貴都道府県について

設問1-1 貴都道府県についてお伺いします。

以下、(1)～(3)について、ご記入ください

(1)	貴都道府県名	
(2)	担当部署名	
(3)	ID ※	

※ 事前にご連絡させて頂いたIDをご記入ください。 (当該Excelファイルをダウンロード頂く際に用いたIDです)

→設問2へとお進み下さい

設問2 フェーズⅢの対応方針と現状について

設問2-1 フェーズⅢの対応方針についてお伺いします。

別紙に、地域結集型事業における、貴都道府県の「事後評価の概要」を示します。

別紙をご覧頂いた上で、以下(1)～(4)の「事後評価の項目毎」に、「フェーズⅢの対応方針」と「現状」をご記入ください。

(事後評価を受け、フェーズⅢに対してどのような方針を立てたか、また、その方針に対して現在の対応状況はどうかについてご記入ください)

なお、「地域COE」の現状に関しては設問4にて更に詳しくお伺いさせていただきます。

事後評価の項目	フェーズⅢの対応方針	現状
(1) 事業目標の達成度及び波及効果並びに今後の展望		
(2) 研究開発目標の達成度及び成果並びに今後の展望		
(3) 成果移転に向けた取り組みの達成度及び今後の展望		
(4) 都道府県等の支援及び今後の展望		

設問2-2 現状を5段階評価でお伺いします。

上記「設問2-1」を踏まえ、各項目を5段階で評価するとどのようになりますか？

「フェーズⅢの対応方針」と「現状」を比較した上で、ご回答下さい(該当する欄に「○」をご記入ください)

	方針通り (順調)	ほぼ方針 通り(ほ ぼ順調)	どちらとも 言えない	一部方針 変更(一 部順調で はない)	方針変更 (順調で はない)	補足(特記事項等)
事後評価の項目(1)						
事後評価の項目(2)						
事後評価の項目(3)						
事後評価の項目(4)						
総合評価						

→設問3へとお進み下さい

設問3 地域結集型事業がもたらした効果等について

設問3-1 貴都道府県の地域結集型事業がもたらした効果等についてお伺いします。

各項目を5段階で評価するとどのようになりますか？（貴都道府県の地域結集型事業が各項目に対してどの程度貢献したと思われますか？）
 貴都道府県の地域結集型事業が仮に実施されなかったと仮定した場合と比較して、ご回答下さい（該当する欄に「○」をご記入ください）
 なお、各項目毎に特記事項等がございましたら、各項目の右端「補足（特記事項等）」欄にご自由にご記入下さい。

区分	項目	大きく貢献している	貢献している	どちらとも言えない	あまり貢献していない	全く貢献していない	補足（特記事項等）
地域COEの構築／新事業・新産業の創出	地域COEの構築						
	新事業・新産業の創出						

区分	項目	大きく貢献している	貢献している	どちらとも言えない	あまり貢献していない	全く貢献していない	補足（特記事項等）
学術的効果	学生教育の課題・教材の提供（人材の育成）						
	該当分野（※1）の若手研究者・研究志願者の増大						
経済的効果	当該地域における、関連産業の集積						
	当該地域における、関連人材の集積						
社会的効果	夢と希望を与える（国民に）						
	夢と希望を与える（地域住民に）						
	当該テーマへの関心向上（国民の）						
	当該テーマへの関心向上（地域住民の）						
	日本の国際的地位の向上						

（※1）：貴都道府県における地域結集型事業がカバーする学術分野

上記の項目以外で、貴都道府県の地域結集型事業がもたらした効果等として考えられるものがございましたら、以下にご自由にご記入下さい。

→設問3-2へとお進み下さい

設問3 地域結集型事業がもたらした効果等について

設問3-2 成功ポイント、および、地域COEの更なる発展に向けたフィードバックポイント等についてお伺いします。

地域COEの更なる発展に向け、成功ポイントやフィードバックポイント等がございましたら、ご記入下さい。

		成功ポイント	フィードバックポイント
(1)	テーマ設定について		
(2)	研究開発体制について		
(3)	新技術エージェント等の活動状況について		
(4)	事業主体・推進主体等の取り組み等について		

その他、地域COEの更なる発展に向け、ご意見・ご提言等がございましたら、以下にご自由にご記入下さい。
(苦勞した点、改善点等、どのような観点からでも結構です)

→設問4へとお進み下さい

設問4 地域COEの現状について

設問4-1 貴都道府県における地域COEの現状についてお伺いします。

基本計画における地域COEの構築計画に照らし、地域COEの整備はどのような現状にありますか？

(1)	①	基本計画における地域COEの構築計画	
	②	進捗状況	
	③	今後の計画	

→設問5へとお進み下さい

設問5 フェーズⅢの対応方針に基づき貴都道府県が取り組んだ事業について

設問5-1 貴都道府県が取り組んだ事業についてお伺いします。

フェーズⅢ以降、貴都道府県が予算措置を行った事業、および、予算措置はないものの貴都道府県が主体的に実施した事業についてご記入ください
(当該Sheetをコピーし、各事業1葉に作成してください)

(1)	貴都道府県名						0
(2)	部署名						
(3)	事業名						
(4)	事業開始・終了予定年度(平成)						
	①	開始年度		年度			
	②	終了(予定)年度		年度			
(5)	事業の目的						
(6)	事業の概要						
(7)	事業の成果または現状						
(8)	貢献度 (いずれかに○)	大きく貢献した	貢献した	どちらとも言えない	あまり貢献していない	貢献していない	
	①	地域COE構築に対する貢献度					
	②	新事業・新産業の創出に対する貢献度					
(9)	事業実施の基礎となったフェーズⅡまでの成果等						
(10)	予算額(千円)		H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
	①	都道府県予算額					
	②	その他予算額					
	③	予算の名称					
(11)	その他補足欄						

→設問6へとお進み下さい

設問6 フェーズⅢとして貴都道府県以外の団体等が取り組んだ事業について

設問6-1 貴都道府県以外の団体等が取り組んだ事業についてお伺いします。

各事業毎に、ご記入ください
(当該Sheetをコピーし、各事業1葉に作成してください)

(1)	事業の実施主体(一つの事業につき実施主体が複数ある場合は①～③に併記してください)						
	①-a	団体名					
	①-b	貴都道府県における当該団体所轄部署					
	②-a	団体名					
	②-b	貴都道府県における当該団体所轄部署					
	③-a	団体名					
	③-b	貴都道府県における当該団体所轄部署					
(2)	事業名						
(3)	事業開始・終了予定年度(平成)						
	①	開始年度		年度			
	②	終了(予定)年度		年度			
(4)	事業の目的						
(5)	事業の概要						
(6)	事業の成果または現状						
(7)	事業実施の基礎となったフェーズⅡまでの成果等						
(8)	予算額(千円)		H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
	①	予算の名称					
(9)	その他補足欄						

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

別紙 「事後評価の項目」と「事後評価の概要」

貴都道府県における「事後評価の概要」※

貴都道府県名 北海道

事後評価の項目	事後評価の概要
(1) 事業目標の達成度及び波及効果並びに今後の展望	<p>事業の推進にあたって、北海道産の農水産物を研究対象にするなど、全体として北海道の地域の特性を生かしたユニークな見地からなされていることは評価できる。中間評価結果を受けて大胆なテーマの絞り込みを行った事により、個々のテーマには順調な進捗が見られる。</p> <p>しかしながら、企業との連携体制も含めて、実用化への展開に向けた基盤整備は十分とは言い難い。これまでの事業が大学主導により運営されてきており、新産業の創出という視点が弱いため、今後の事業を継続的に発展させるために北海道としての戦略を明確にし、体制を見直す必要がある。</p>
(2) 研究開発目標の達成度及び成果並びに今後の展望	<p>北海道大学を中心とする研究体制が生まれ、食品が生体調節に及ぼすメカニズム解明など科学的進展という目から見ればレベルの高い成果を得ている。</p> <p>しかし、論文数・特許出願数ともに十分とは言えず、また、基礎研究から応用・実用化研究に着実に進展しているものも、あまり多く見られない。特に実用化という面では遅れがみられることが懸念される。特定保険用食品の開発は重要な課題であり、これまでの成果を整理し活用していく今後の取り組みに期待したい。</p>
(3) 成果移転に向けた取り組みの達成度及び今後の展望	<p>数は少ないがオリゴ糖の一種であるDFAIIIなど商品化への展開が期待できる成果もあり、特定の大手企業の販売力を活用できる体制も確保しつつある。</p> <p>しかしながら、全体的には共同研究参加企業の広がりがあまり見られず、研究成果と商品化の間のギャップが大きく成果移転も順調とは思われない。十分なる製品の市場調査を行い、経済規模、波及効果などを考慮した上での成果移転活動を期待したい。</p>
(4) 都道府県等の支援及び今後の展望	<p>事業期間中におけるコア研究室、コラボほっかいどう等の環境整備や産学連携の推進への指導性の発揮に北海道の支援姿勢は認められる。</p> <p>しかしながら、新事業・新産業の創出に向けた北海道としての主体的な関与姿勢は不十分であり、今後は地域産業活性化の観点から地域COE形成に向けた具体的な戦略を策定し、主体的な取り組みを期待する。</p>

※出典:「平成15年度事業終了地域事後評価報告書」(独立行政法人科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会、平成16年3月)より作成